

地域社会におけるスポーツの実施に関する研究(東京都の市区町村を事例として) A study of sports in the community

1K07B181-0

指導教員 主査 武藤 泰明 先生

藤江 亮介

副査 早田 幸 先生

第1章

地域社会におけるスポーツの現状

今日、私たちは様々なかたちでスポーツとの関わりを持つようになってきている。それらは「スポーツをプレイする」「スポーツを観る」「スポーツを支える」という大きく3つの視点に分かれ、国際的なものからローカルなものまでフィールドも異なる。

本研究では、その中でも地域社会でのスポーツの実施というところに焦点を当てて話を進めていきたい。

地域社会におけるスポーツの場を充実させていこうという大きな流れは確かに存在する。その中で、地域社会におけるスポーツの実施がその地域にどのような影響をもたらすのか、あるいは何ももたらさないのか、ということをはっきりさせたいと思うようになった。

また、もうひとつ視点として、地域社会のスポーツ環境を整えるのは、誰なのかということもスポーツの実施に絡めて考えてみたい。

任意団体のクラブチームや学校スポーツ、企業スポーツに加え、プロクラブ、民間フィットネスクラブ、行政主導の総合型地域スポーツクラブ、NPOのような中間セクターなどスポーツ環境を整える多様な担い手が存在する中でどのようなバランスを求めてゆけば良いのか。

第2章

東京都の市区町村別にスポーツ実施状況を見る

地域社会単位でのスポーツ実施状況を見るために私が注目したのはママさんバレーボール(家庭婦人9人制バレーボール)である。ここでは「地域スポーツクラブ発展に関する考察」(徳永,1994)をもとに、ママさんバレーボールという種目の特徴と、なぜ地域社会におけるスポーツの実施状況を表せるのかということを示したい。

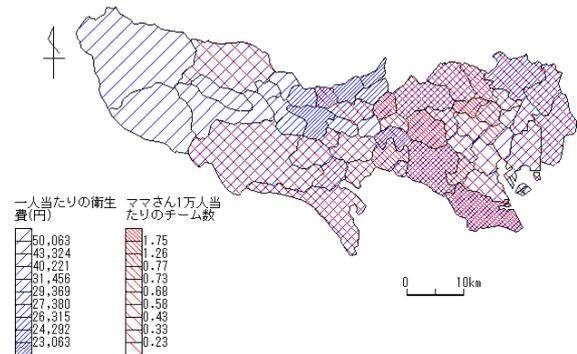
第3章

統計データから見る東京都の市区町村

各自治体の体育施設費やスポーツ関連 NPO 数などを指標化し比較検討する。

第4章

地域別の傾向の分析



上の図のような分析を複数行う。

第5章

(まとめ)

本研究で示せたことは大きく分けて2つ。

1 つ目は、東京都の市区町村別でみたスポーツの実施率がそれぞれの地域の高齢化の指数・保健費の指数・雇用の指数・所得の指数と相関関係にあるということである。

高齢化の指数・保健費の指数・雇用の指数・所得の指数が望ましければその地域は活性化しているのかと問われれば、答えに困るというのが実際のところだ。ただ、もう少し項目を増やして、定点観察的にデータを収集してゆくことで、まだ広がる余地のある研究ができたのではないかと思う。

2 つ目は、各市区町村での行政の積極的なスポーツ支援(体育施設費)と行政に依存しないスポーツの実施(NPO 数)に相関関係があるということである。これは大変興味深い結果となった。

住宅、雇用、教育、商業、高齢者福祉などの諸政策と一体のものとしてスポーツを捉え、積極的な支援をするということを、各自治体が当たり前に行うということが求められているのではないだろうか。本研究の結びとして1つ提言ができるのであれば、このようところであろう。